

令和8年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【東浦和中学校】

学力向上 アクションマップ

①	今年度の目標と学力向上策
重点的に育成する 資質・能力	・自ら課題を見つけ、根拠をもって考え判断し、主体的に行動する力。 ・学習への意欲を高め、見通しをもって継続的に学習に取り組む態度と学習習慣。
↓	
実施する学力向上策 【時期・頻度】	・毎時間、学習の目標設定と授業の振り返りを行う時間を設け、基礎・基本の定着を図るとともに、見通しをもって学習に取り組める授業づくりを行う。【毎時間】 ・ペア・グループ活動を取り入れ、自分の考えを伝え合う活動を充実させる。【各単元の中で1回以上】 → 前期・後期に授業アンケートを実施し、生徒の実感や学習への意識の変容を確認する。 ・随時教科会を開催し、学習状況や取組の進捗状況を共有するとともに、指導方法の振り返りと改善を行う。【随時】

⑤	年度末評価	
学力向上策の 実施状況	評価(※)	②詳細分析(学年・教科担当) ③分析共有(児童生徒の実態把握) 職員会議・校内研修等
↓		
今年度の成果と 次年度の課題	さいたま市学習状況調査(学力) <小3・中3>(1月)	

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)

②	全国学力・学習状況調査結果の分析
特徴的な結果	学力は国数ともに全国以上で基礎は定着している。授業での対話やICT活用による理解度も高い状態である。一方で、国語の文脈に応じた表現や数学の論理的説明など、根拠を伴う記述問題の正答率・無解答率に課題が見られる。教科への興味低下や家庭学習不足も課題であり、授業での学びを確実な応用力へ繋げる手立てが必要である。
↓	
結果から考えられる 児童生徒の実態	授業内の協働や振り返りには主体的に取り組んでいる一方、根拠や条件をもとに論理的に記述・説明する思考の深掘りには課題がある。学校での理解度や安心感が高いものの、教科への興味低下やスマホ利用増加により、家庭での自主的な学習習慣の確立が難しい。

④	さいたま市学習状況調査結果の分析
特徴的な結果	
結果から考えられる 児童生徒の実態	①学校全体での取組 ②単元テスト・定期テスト 等の分析・活用 ③中間評価を経ての取組 ④調査結果を活用した授業

③	中間評価
学力向上策の 実施状況	評価(※) B
学力向上策の 見直し	見通しと振り返り【毎時間】 分かったこと、学んだこと、まだ理解できないこと等を記録し、授業の理解を深めるとともに家庭学習へつなげる。 対話的な学び【各単元1回以上】 ペアワーク、グループワーク等で「なぜそう考えたか」の理由などを伝え合い、考えを深める機会をつくる。 基礎学力の定着【毎時間の授業と家庭学習】 ICTやワークシート、ワーク等を活用し、個々の習熟度に応じた課題を提供する。また、授業と家庭学習をつなぐ繰り返しの学習を意図的に取り入れ、基礎学力の定着と学習習慣の確立を図る。

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)